令和4年10月14日

東京都歴史教育研究会
会 員 各 位

東京都歴史教育研究会会長
東京都立葛西南高等学校長
関 山 勝 之

東京都歴史教育研究会見学委員会委員長
東京都立成瀬高等学校校長
高 野 修 一

東京都歴史教育研究会 秋季史跡見学会のご案内

「北里柴三郎と渋沢栄一～新紙幣の“顔”となった人物ゆかりの地を訪ねて～」

清秋の候、皆様におかれましては、ますます御盛栄のこととお慶び申し上げます。令和4年度秋季史跡見学会を企画いたしましたので、ここにご案内いたします。

今回は、2024年の新紙幣の顔となった北里柴三郎と渋沢栄一のゆかりの地を中心に、東京中心部を見学いたします。

午前は、北里柴三郎記念館を今回の見学会のために特別に休日開館していただきます（貸切）。「近代日本医学の父」と呼ばれる北里の学術研究論文や公的活動に関連した資料、恩師コッホや恩人福沢諭吉、門下生等の関係資料などの展示があります。その後、津田梅子が帰国後英語教師として勤めた華族女学校跡や渋沢栄一が設立にも関わった東京女学校跡を巡ります。

午後は、貨幣博物館を見学します。2015年にリニューアルした館内では古代から現代までの様々なお金や、日本銀行創設140周年の企画展など見学できます。その後、渋沢栄一ゆかりの地である、第一国立銀行跡や渋沢栄一邸跡、東京証券取引所がある兜町を巡ります。また東京駅周辺を歩きながら、渋沢が設立発起人となった帝国ホテルへ向かいます。帝国ホテルでは館内の展示や敷地内の渋沢栄一像を紹介します。平日しか見学のできない北里柴三郎記念館や新紙幣に関する新しい発見ができる見学会となっております。

感染症対策を十分にして皆様の参加を心よりお待ちしております。なお感染拡大防止の観点および北里柴三郎記念館の室内見学の関係上、定員を20名とさせていただきます（先着順）。

- 1 期 日 令和4年11月13日（日） ※雨天決行
- 2 見学地 東京都港区・千代田区・中央区
- 3 集 合 午前9時30分 北里大学白金キャンパス 北里柴三郎記念館 2階ラウンジ
解 散 午後5時00分 京浜東北線・山手線 JR 有楽町駅

<北里大学白金キャンパスまでの交通案内>

- ・渋谷駅（JR・東京メトロ銀座線・半蔵門線）東口からバス15分
- ・広尾駅（東京メトロ日比谷線）天現寺橋方面から徒歩10分
- ・恵比寿駅（JR・東京メトロ日比谷線）東口から徒歩15分またはバス7分
- ・田町駅（JR）、三田駅（都営地下鉄浅草線）バス約15分
- ・白金高輪駅（東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線）恵比寿方面から徒歩10分

4 行 程

<午前> 北里柴三郎記念館（解説付き）→華族女子学校跡→東京女学館跡→女子英学塾跡→半蔵門
駅で一旦解散、昼食をとり午後再集合

<午後> 午後1時 貨幣博物館再集合

貨幣博物館（ガイド付き）→常盤公園（渋沢栄一像）→郵政発祥の地（前島密像）→銀行
発祥の地（第一国立銀行跡）→東京証券取引所（外観）→日証館（渋沢栄一邸跡地）→兜神社
→電燈供給発祥の地→東京商工会議所（外観）→帝国ホテル（ホテル内の企画展・渋沢栄一
像）→JR 有楽町駅解散

5 参加費 1000円 資料代（資料代、その他雑費）

6 問い合わせ先

○参加に伴うサービス上の扱いに関するお問い合わせ

東京都立成瀬高等学校長 高野 修一 電話042（725）1533

○史跡見学会に関するお問い合わせ

東京都町田総合高等学校主任教諭 古川 泰代 電話042（791）7980

※当日の連絡先：担当者の携帯 090-1779-0971

7 参加申込締切 **令和4年11月8日(火)【必着】**まで

※下記の申込書に記入の上、メールにてご送信下さい。メール送信が難しい方は、申込書記入の上、
FAXまたは封書にてご送付ください。定員20名となります（先着順）。

〈参加申込書送付先〉	
〒194-0037	東京都町田市木曾西3-5-1
	東京都立町田総合高等学校 古川 泰代
Eメール	Yasuyo_Furukawa@education.metro.tokyo.jp
FAX	042-791-8063

.....
東京都立町田総合高等学校 古川 泰代 宛 FAX 042-791-8063

東京都歴史教育研究会 秋季史跡見学会 申込書

ふりがな 氏 名		所 属	
住 所	(写真などの送付に使用させていただきます)		
電 話			
通 信 欄	※北里柴三郎記念館で質問されたいことがありましたら、是非こちらへご記入ください。		

秋季見学会の主な見どころ

赤字は『日本史用語集』（山川出版社）収録の用語

午前

○北里柴三郎

北里柴三郎は東京大学医学部を卒業後、内務省に入り、1886年からの6年間ドイツに留学し、病原微生物学者のローベルト・コッホに師事し、破傷風の研究を行った。1889年には世界で初めて破傷風菌の純粋培養に成功し、翌年血清療法を確立して、一躍世界的な研究者としての名声を博した。帰国後、福沢諭吉らの支援を受けて、伝染病研究所を設立した。当時国内でまん延していたコレラ・ペスト・チフス・赤痢・ジフテリア等の伝染病の制圧に尽力しました。1893年には日本初の結核専門病院「土筆ヶ岡養生園」を開設、翌1894年にはペスト原因調査のため香港へ派遣され、ペスト菌を発見した。1914年には北里研究所を設立し、またその後も慶應義塾大学医学部、日本医師会、日本結核予防協会などの創設に関わった。門下生には赤痢菌を発見した志賀潔、梅毒の特効薬サルヴァルサンの創製に成功した秦佐八郎、黄熱病や梅毒の研究で知られ、現在の千円札の肖像になっている野口英世など、世界レベルの研究者を育てた。

○華族女学校跡・女子英学塾跡（津田梅子関連史跡）

岩倉使節団に随行した5人の女子留学生の最年少であった津田梅子は、わずか8歳で渡米し10年間の海外生活を過ごした。1882年に帰国すると伊藤博文の家の家庭教師を経て、華族の女子のための教育機関である華族女学校（のちの女子学習院）で英語教師となった。しかし再渡米の夢をあきらめきれず、華族女学校に籍を残したまま1889年にアメリカへ旅立った。プリンマー大学に入学し、生物学を中心に質の高い教育を受けた梅子は、女性にとっての教育の重要性を再認識し、帰国後資金を募り、1900年に女子英学塾（のちの津田塾大学）を設立した。

○東京女学館跡

津田梅子と交流のあった伊藤博文は1886年に「女子教育奨励会」創設委員会を立ち上げ、創立委員長となった。委員には当時の政・財・官界の有力者が名を連ねた。その中には渋沢栄一、岩崎彌之助らがいる。東京女学館は女子教育奨励会を母体として1888年に開校した私立女子学校である。1923年の関東大震災の際に校舎が焼失し、新校舎建設の際にも渋沢が建築費の算段など行っている。

午後

○貨幣博物館

日本銀行の隣に位置する貨幣博物館では、古代から現代までの様々なお金やお金に関する絵画、道具など展示されている。日本銀行本店が建つ場所は、江戸時代金座が置かれ、幕末まで金貨の製造が行われていた。日本銀行は1882年開業し、現在の建物は建築家の辰野金吾が設計し、1896年に完成している。辰野金吾は建築家ジョサイア・コンドルの弟子で、東京駅丸の内駅舎の設計をしたことでも知られている。

○渋沢栄一

1840年、現在の埼玉県深谷市血洗島の農家に生まれた。実業・商業を営む実家を手伝うかたわら、尊王攘夷思想

に傾倒したが、縁あって一橋慶喜の知遇を得て家臣となった。1867年には慶喜の実弟である徳川昭武に随行しパリの万国博覧会を見学するほか欧州諸国の実情を見聞し、先進諸国の社会の内情に広く通ずることができ、これが後の実業家としての人生に大きく影響することになった。明治維新を経て、欧州から帰国した栄一は、大蔵省の一員として、1872年には**国立銀行条例**の公布に尽力した。翌年、大蔵省を退官すると**第一国立銀行**を設立した。その後、1878年には、東京の財界人らと協力して、日本橋兜町に**東京株式取引所**（**東京証券取引所**の前身）を設立、兜町は現在でも「日本のウォール街」と称される金融街として発展した。

栄一はその後も株式会社組織による企業の創設・育成に力を入れ、また、「道徳経済合一説」を説き続け、生涯に約500もの企業に関わった。また企業だけでなく、約600の教育機関・社会公共事業の支援並びに民間外交に尽力し、多くの人々に惜しまれながら1931年、91歳の生涯を閉じた。

○日証館（渋沢栄一邸跡地）

兜町の渋沢栄一邸は第一国立銀行のすぐそばに1888年に完成した。設計者は**辰野金吾**である。1901年には栄一は飛鳥山へ移るが、その後も渋沢事務所として使用された。**関東大震災**が発生した1923年9月1日も、事務所で打ち合わせをしていたが無事に非難をした。しかし、同夜、兜町一帯で火災が発生し、事務所は全焼した。日証館は1928年に建てられ、現在は多くの企業が入る。

○帝国ホテル

帝国ホテルは1890年年、西欧化を進める明治政府の要請で、渋沢栄一や**大倉喜八郎**らが設立発起人となり海外賓客をもてなすホテルとして開業した。隣接していた**鹿鳴館**と共に新時代を象徴する建造物であった。設立発起人総代の一人であった渋沢栄一は、開業以来19年間経営を舵取りし、初代会長を務めた。1923年には「アメリカが生んだ20世紀最高の建築家」と言われる**フランク・L・ライト**によるライト館が完成（現在は解体され明治村に玄関部分が移築）。敷地内には、1925年に完成した栄一や喜八郎の銅像が設置されている。